

横芝の碑

へその三十二

へ呼び合う碑

五月号の本紙が配送されたのは五月九日の正午頃でしたが、その午後、役場を通じ、また直接私宛に次の様な連絡を戴きました。

「旧大総村役場の面影は忠魂碑に残る、といっているが、その傍に日露戦争の記念碑が建っている。横芝町史にも写真が載っているので紹介してはどうか。」

「町史にも写真が載っているが、上堺小学校前の忠魂碑も題字が鈴木孝雄大将の揮毫と思う、確認して欲しい。」

「鈴木孝雄大将の生れたのが明治三十九年で、昭和三十九年に八十六才逝去というのは計算が合わない、又少尉任官が昭和というのもおかしい。」という三つの御指適でした。

日露戦役記念碑というので思い出したのが、このシリーズで紹介したところのある新島の乃木將軍揮毫の碑のことでした。「それでは大総の乃木將軍揮毫では……」と、三時の休憩時間を利用してオートバイを走らせました。ところが、気が付かなかったのが不思議な位立派な碑が、忠魂碑のすぐ傍に建っているのです。

黒々として、道路からは一寸と見辛いのですが、近寄ってよく見ますと、碑の表面に刻まれている明治卅七八年戦役記念之碑、という篆額も、陸軍大将正三位勲一等功三級乃木希典篆額という刻字まで、全く新島の碑と同じでした。

旅順攻撃、水師營の会見、田原坂の軍旗喪失、そして明治天皇に殉じた悲劇の主人公としても有名な乃木將軍揮毫の碑が、現在、合併して一つの町となっている旧上堺村と大総村に建っていたことに不思議な因縁を感じながら二基の碑を見上げていくうちに、上堺にも建っている、という鈴木孝雄大将揮毫の碑が無性に見たくなくなりました。

翌日は、丁度土曜日だったので午後になるのを待ちかねて上堺小学校前の忠魂碑を訪ねて見ました。予め町史の写真でも見ていたので、すぐに碑はわかりましたが刻まれている題字も、署名花押も紛れもなく鈴木孝雄大将揮毫によるものでした。

乃木將軍揮毫の碑が旧上堺と大総両村に建っていたことにさへ何か因縁めいたものを感じていた私

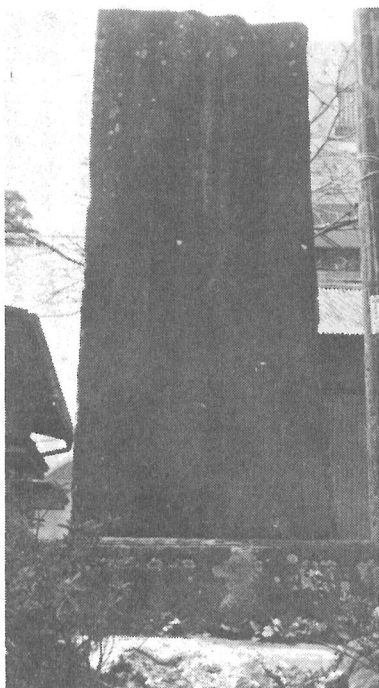
は、更に兄君鈴木貫太郎大将揮毫の碑から、凡そ等距離に令弟孝雄大将揮毫の碑が二基建っている、しかも、そのことが判ったのが、兄君貫太郎大将揮毫の碑紹介に基

は、更に兄君鈴木貫太郎大将揮毫の碑から、凡そ等距離に令弟孝雄大将揮毫の碑が二基建っている、しかも、そのことが判ったのが、兄君貫太郎大将揮毫の碑紹介に基



▼上堺小前の忠魂碑

▼大総会館敷地の日露戦争の記念碑



れぞれの碑がお互いに呼び合い、その所在を確め合っているような錯覚が起きてくるのでした。

写真左は、大総会館前に忠魂碑と並んで建っている乃木將軍揮毫の碑で、篆額署名の外に従軍勇士の氏名と、建設者は出征軍人であること、また台座には大総村と太字で刻まれています。上端部がスツパリと断ち切られた形姿は、伝え聞く乃木將軍の人柄を物語るような俊厳さが伺われて印象的です。

又右は上堺小学校前に建っている鈴木孝雄大将揮毫の忠魂碑で、表面には、忠魂碑 元陸軍大将鈴木孝雄書花押 昭和二十九年五月建之、と刻まれています。それに前に並んで建っている献灯まで大総会館前の忠魂碑と全く同じでした。裏面の英霊氏名連記の後に、石橋良一敬書と刻まれていますがこの人は県耕地協会の役員さんであつた石橋さんでしょうか、その頃、元軍人の集りで郷友会という団体があつた様に思いますが、確かその会長さんが石橋さんであつたと記憶しています。

尚、鈴木孝雄大将の生れた年、少尉任官年、死亡の年等についての誤謬につきましては、御指適の通りで、手元の資料には、明治三年生れ、同二十五年に少尉任官、昭和三十九年九十四才で逝去、となつております。締切りに追われて提出原稿浄書の時に書き誤つたものと思えます。お詫びを兼ねて訂正閲覧方おねがいたします。

◎(両碑とも、小学校の前に建っていますので案内略図を省略させていただきます。)